



さなぎ達通信

VOL.23 2010年6月発行

特定非営利活動法人さなぎ達 〒231-0025 横浜市中区寿町3-9-8 電話045-228-1055

教育・戦争・運命



さなぎ達理事長 山中 修 (ポーラのクリニック院長)

さる4月29日に横浜管弦楽団(原田重一氏指揮)のコンサートが、大好評裏に開かれた。本誌はその特集号であるが、その9日前に父が逝った。個人的に勝手に今号は父親の追悼号とした。享年90歳。妻(82歳)と2人の子供(姉58歳、小生55歳)、年齢を足すことに別に意味は無いが、参加者総と285歳の自宅での看取りはわずか6時間、息子としても主治医としてみても実にカッコイイ逝き方だった。過去の記憶力にとっても秀でていた父は、自分の記憶をなぞりながらつらつらと同窓会誌などに良く寄稿をしていた。

呼吸するのもメンドウくらいのズボラ人間だが、書くのは好きだった。愚息のさなぎ通信への駄文には、毎回批評をくれたものである。「我が戦中戦後」と題して71歳時に書かれた父親の手書き原稿が遺っているので、紹介したい。()内は小生の注。

(同窓会報の幹事から)従軍記をかけといわれた。従軍はしたが戦争はしていない。(台湾生まれの)軍医として昭18年から20年まで満州駐、その後沖縄玉砕にいく予定が、愛知県へ、そして終戦。患者で南方の戦争談をするものがおればもっぱら聞き手となる。戦友会もあるが、戦時中苦労してないので余り出席しない。逃げ回って楽な道をえらんだわけではない。「軍隊は運隊」。結果的に軍人らしい武勇伝皆無、そうなっただけである。

それまでにはそれぞれの運命の分岐点があった。戦死した人にはもうしわけないと思う。2、3年前の八月十五日、上京して友に会った。海軍軍医、戦争犯罪

人の疑いで、一時モンテンルパの死刑囚になった友である。靖国神社につれていかれた。小生「まかりまちがえば僕もここに祀られていたかも」、友「お前のようなのは、ここには入れてくれない。門前払いだ」と云われた。色々の意味にとれた。大学記念誌発刊の時も、編集者から「他の諸兄の文章にはそれぞれ戦争中の真剣味が溢れているが、貴兄のはどうも～」と云われた。(中略)昭16.12.8 ハワイ空襲、大東亜戦突入。大学3年(父は台湾生まれ・育ち、台北帝国大学医学部)皮ふ科外来でニュースをきく。いよいよはじまったか。昭17年 徴兵検査 甲種合格、体力測定では丙種相当。△外形は良いが機能不良。(中略)(医学部繰り上げ卒業後23歳で満州に配属。台湾生まれが初めて雪を見る。)釜山、奉天、新京へと北行、列車の窓からのぞくと零下30℃なのに、沿線で満人が尻をまくって用を足している。一人や二人ではない。屋内ですると大便が凍ってかたまってその処置に困るので外でするのである。

満州では9月に雪が降り始め5月に融ける。これら的大便は5月になると黄砂風塵となり天にまい上がる。路上で満人の凍死者もみかける。兵隊でも酔っぱらって路上でいねむり、凍死したものもあり、かついで部屋に入れたら、ポトポトと水が垂れてくる。「小便のカケラ」でヒタイを切った兵もいる。便所の小便が凍ってアイスキャンディのように積もる。これをツルハシでくたいて運ぶ作業をしていて、カケラが額にとんできたのである。大便はもっと始末がわるい。便所は深くつくってあるが、便が下から下から凍ってうづ高く山になる。ついにはその頂上が、しゃがんだときの尻

の高さに達する。夜、あわててしゃがむと大便のとんがった柱が尻にささる。(後略)

てな調子で延々と文章がつながる。

5年前まで三重県で開業医をしていた父は、ポーラのクリニック開設の時、退いて横浜へ。今年になって、ころぶことがふえていた。話し好きだったが、難聴になったので、一人座っているだけのことが多かった。台湾—満州—豊川—宮崎—名古屋—伊勢—鈴鹿—鳥羽そして終焉の地横浜と本人曰く「根無し草」。24時間前には最期の食事をした。おかゆとサバのみりん干し。食後長い間妻の顔をじーっと無言でみつめた(こんなことは「59年間一度も無かった」と母)。京都からか

けつけた姉が3時間「お父ちゃんガンバッテ！ガンバッテ！」を連叫、30分前から姉と二人で「お父ちゃんアリガトウ！」を両耳元でくりかえした。明らかに聞こえていた。一声ずつに目で応えていた。山中 茂 午前0時6分と死亡診断書に記入した。

父の文章にある。人生を左右する3つの要素、「教育・戦争・運命」。

云われてみれば深い。

一人ではどこにも行けなかった父。無事に川を渡ったろうか・・・？

友は多かった。学友はみなあつちだから、ぐうたらサンチュウ(山中)のことが心配で道案内に出迎えに来てるだろう。

ゲストブック

山中理事長の巻頭言にもある通り、4月29日午後、寿町のバプテスト教会でさなぎ達発足10周年の記念コンサートが開催されました。今号のゲストブックには、演奏して下さった横浜管弦楽団の原田重一さんにご寄稿いただきました。

私とボランティア演奏

先日は、私どもの演奏をお聞きいただきまして、ありがとうございます。

横浜管弦楽団は年2回の定期演奏会を行い、その間には様々な依頼により無償の出張演奏会を行っています。私がボランティアの演奏会に関わるようになったいきさつなど、私の音楽の歴史について書いてみました。

私は子供の頃、特に音楽教育というものを、受けずに育ちました。習い事と言えば、小4の時から「珠算」を習い、中2の時に日商の一級を取りました。

運命というものは、何が原因になるかその時は判りませんが、この「そろばん」が、後に音楽に関わっていくから不思議なものです。

中学の時には、まだ楽譜も読めず、音楽の成績も5ではなく4でした。

高校受験の時に、先生から、そろばんが抜群なのだから、Y校(横浜市立横浜商業高校)を受けたら・・・と勧められ、深い考えもなく進学しました。入ってみたら、そろばん一級などクラスに3人位はいて、珍しくありませんでした。



横浜管弦楽団 指揮者 原田 重一

私は迷わず吹奏楽部に入りました。Y校の吹奏楽部が当時としては珍しく、クラシックを重点に演奏するクラブだったのも、幸いしました。私はホルンを担当しました。他の楽器で音楽性の豊かな先輩がいて、その人のおかげできれいな音を出せるようになり、ますますホルンにのめりこんでいきました。

高校2年の時、「横浜交響楽団」に入りました。

指揮者の小船幸次郎先生は、最年少の私を「ぼうや」と呼び、可愛がってくださいました。後に和声学や指揮法を無料で教えていただきました。働くようになった時に「先生、もう就職しましたから、月謝を払います！」と言ったところ、じっとこちらを見て「お前、ここの月謝、いくらか知っているのか？ そんな事考えないで、しっかり勉強しろ！」と言われた事を、よく覚えています。

27歳の時、私は横響のジュニアオーケストラ(実際には青年60人位)の指導者になっていました。横響には合唱団もあり、そこに親しかった女性がいて、「県立ひばりが丘学園」の保母さんをやっていました。

障害のある子どもたちが生活している施設です。

「オーケストラが来てくれたらなー」と一言言われ、即行く事に決めました。



子供相手ですから選曲に困りました。当時テレビではやっていた番組「仮面ライダー」や「巨人の星」といった曲も取り入れる事にしました。市販されている楽譜はありません。

私の本職はピアノ調律師ですので自由な時間が使えましたが、全曲15曲の内、11曲編曲しました。3分の曲を編曲するという事は、全ての楽器の異なる楽譜を3分分、手で書くという事です。この後、すっかり楽譜を書くことに疲れてしまい、自分は「作曲家」には向かない、と悟りました。

演奏会は大成功でしたが、終わって仲間と祝杯をあげている時に言われました。「やった事は立派だけど、動機が不純だ！」・・・まっ、男が何かする時は、そんなものでしょう？

さなぎのコンサートも、同じようなきっかけです。

山中先生が何気なく言った一言「ヴァイオリンの本物など見たことも無く、死んでいってしまう人がいるんですよ！」私は即答えました。「ああ、それならみんなで行ってあげますよ！」30数年前より、動機は潔くなっていますかな

報告

(1) 「かどべや」オープン

さなぎ達理事 岡部友彦

寿町から少し外れた石川町五丁目に、「かどべや」という拠点がオープンしました。かどべやは、今年の四月から、慶應義塾とともに創った拠点で、学生達がキャンパスの外で体験を通して学んでいく場として、また、地域の交流拠点として活用することを目指して運営していきます。日替わりで様々な教室を盛り込んでいたり、そのうち寿のおじさんが先生になる教室などもつくっていければと考えています。是非みなさん、遊びにいらしてください！

(2) 「さなぎの食堂」平成22年度上半期業績

さなぎ達理事 糸川 清弘

「さなぎの食堂」に付きましては、実質営業利益の継続的黑字化を目指し、本年度初めて営業目標値を定め、年間売上目標40,312,000円(対前年105%)営業利益2,200,000円の確保を目標に頑張っ

て参りましたが、4月度を終え上半期の結果が出ましたので報告します。上半期(21年10月~22年4月)の売上目標は20,156,000円、営業利益目標999,000円の黒字確保でスタートしたものの結果は残念ながら売上高18,995,000円(達成率94.2%)、黒字を目指した営業利益は1,425,000円の赤字に終わりました。

売上高は、前年実績18,995,000円に比し約2%の減少に留まっている事、及び上半期全月が3,000,000円以上の売り上げを確保している事を考慮すると、むしろ設定予算に無理があるとも言えるので現在の営業環境下では十分健闘して頂いたと、土屋さん始めスタッフの皆さんの努力を評価したいと思います。

赤字の主たる原因は、管理費の未達成(予算比128.2%)にあるのですが、これも前年比では5%程度の

増加に過ぎず上半期数値としては許容範囲と言えます。

とは言え、上半期を終え営業赤字である事は間違いないのでこの事をスタッフの皆さんだけで無く全員で認識し、特に①新しく取り組み始めた「仕出し弁当」事業の新規顧客開拓 ②食材確保への協力等、側面からの応援と協力をお願いしたいと思います。

その他経費については、スタッフの皆さんにより一層の節減努力を望みたいと思います。

(3) Y I S フードフェア

さなぎ達理事 キム・オクラン

晴天に恵まれた5月2日。Y I S (横浜インターナショナルスクール) のフードフェアに参加しました。5月2日晴天。いよいよフードフェアです。800名の学生とその家族が一同に集まりました。多国籍、多民族のお祭りです。いろいろな国の民族衣装を着て、皮膚の色の違う人々がそれぞれの国の料理を販売しています。さながら校庭は料理とにおいのるつぼです。

その中で、「さなぎ達」はお弁当とリストバンド(注:本号の折込参照)を販売。なんとも不思議な環境の中で、さなぎ達はすでにかなり知られていました。10人の生徒が手伝ってくれました。自由と規律。着るものも食べるものもしゃべる言葉もちがう人々が助け合いながら規律正しくボランティアをする姿に感銘しました。ハイスクールのころからボランティアをすることが身につけている姿を知りました。日本にもこのような環境が整うこと、「さなぎ達」がその場所として利用されることを願っています。

編集後記



あっという間に内閣が交代してしまいました。あ然とします。ただ、政府の経済政策に影響を持つ経済学者として、神野直彦さんが頑張っておられることに期待したいと思います。神野さんの掲げる「分かち合い」は今の日本、そして広く世界に求められている考え方だと思います。(NP)